

マルマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：マルマ語、パラインサ方言、ミナ、テキスト

1 はじめに

1.1 資料について

本稿では、南アジアで有名なアニメ・ミナ^{注1}のマルマ語 (ISO 639-3 rmz) による翻案をとりあげる。第 10 話をあつかった藤原 [2021] にひきつづき、本稿では第 1 話「ニワトリを数えておけ」^{注2}をとりあげる。

クレジットタイトルから判断すると、マルマ語版はバングラデシュで作成されている^{注3}。ただし、ここではなされているマルマ語は、バングラデシュ・チッタゴン丘陵のカグラチヨリ地方やインド・トリプラ州に居住するパラインサとよばれる氏族がはなすマルマ語である。パラインサがはなすマルマ語は、筆者が長年研究してきているバングラデシュ・チッタゴン丘陵のラジョストリ地方のマルマ語や、マルマ人の中心地であるバンドルバン周辺のマルマ語とは、相違点が散見される。ただし、相互理解が困難になるほどの相違ではない。

2 表記上の注意

本稿であつかうマルマ語はパラインサのマルマ語である。本稿執筆にあたり、バングラデシュのマルマ語パラインサ方言話者から数時間のききとり調査をおこない、パラインサの基本的な特徴を把握するようにつとめた。しかしながら、本稿は基本的にはラジョストリ地方出身の話者 (OCN でしめす) に協力をあおぎ、かきおこしをしている。したがって、パラインサ本来の発音とは異なるかきおこしをしている箇所があるかもしれないことをおことわりしておく。

2.1 音素表記

本稿におけるマルマ語は筆者による音素表記である。本稿であつかうマルマ語パラインサ方言と、筆者が研究してきたマルマ語ラジョストリ方言あるいはマルマ語バンドルバン方言とは、個々の語彙の発音や音素配列上の制約に相違があることはあっても、基本的な音素に相違はほぼないとおもわれる。

マルマ語の音素は/p, ph, b, t, th, d, c [tɕ], ch [tɕʰ], j [dʒ], k, kh, g, ʔ*, θ, f [ɕ], h, m, hm, n, hn, ŋ*, hŋ, r, l, hl, w**, y**, i, e, a, ɔ, o, u, ə/である。*は末子音としてもあらわれうるものを、**は子音

^{注1} ミナの概要については藤原 [2021] を参照。

^{注2} 動画は <https://www.youtube.com/watch?v=b3GrLK6YthU> (2022 年 2 月 24 日確認) で閲覧可能である。

^{注3} 藤原 [2021] では、インドで作成されたと推測した。しかし、その後バングラデシュで作成された可能性がたかいことがわかった。

連続の第二要素としてあらわれるものをしめす。このほか、閉音節でのみあらわれる二重母音として /ai, ou, oi/ がある。声調としては高声調（鋭アクセント記号 $\acute{\quad}$ でしめす）、低声調（アクセント記号なし）、上昇調（曲アクセント記号 $\overset{\sim}{\quad}$ でしめす）のほか、声門閉鎖音でおわる音節にのみあらわれる促音調（アクセント記号はなく、音節末の声門閉鎖音によってしめす；音調としては上昇調である）が弁別的である。また、音素 /ə/ は固有の音調をもたず、常に軽声をになう。

2.2 連声

筆者の観察によれば、マルマ語では有声交替が観察される。マルマ語における有声交替は、同一音韻語において、声門閉鎖音以外の音に後続する無声阻害音が対応する有声阻害音に交替するというものである。具体的には、 $p > b$ 、 $c > j$ 、 $t > d$ 、 $k > g$ といった有声交替が観察される。典型的には、複合語における後部要素の初頭子音や、附属語である機能語の初頭子音が有声交替をおこす。

3 本文と語釈

(1) 0:00:48 タイトル

kraʔ=rō=go rwi=bɔ thá!

chicken=PL=OBJ count=SEQ put

「ニワトリを数えておけ」

(2) 0:01:04 こどもたち

ʔɔ́jabaŋ=ma kyí ná=re.

sugar.apple.tree=LOC parrot fly.and.rest=RLS

「バンレイシの木にオウムが飛んできて休んでいる」

注 *kyí na=re* のようにもきこえる。

(3) 0:01:07 こどもたち

dalóŋbaŋ=ma pyá wé=re.

pomegranate.tree=LOC bee fly=RLS

「ザクロの木に蜂が飛ぶ」

注 1 *dalóŋ* “pomegranate” はモン語 *dalan* (Cf. サンスクリット *dālima*) と関係する [Hla Pe 1967 [2019: 206] ; 西田 1972: 155]。

注 2 *pyá we=re* のようにもきこえる。

(4) 0:01:10 こどもたち

ye=hlɔʔ khɔ=re.

this=as.much.as call=RLS

「これほど呼ぶ (のに)」

(5) 0:01:11 こどもたち

ja=fǎ mə-thú=lé?

what=calculation NEG-answer=CQ

「なぜ返事がないのか?」

注 *ja=fǎ* < *ja ʔǎfǎ* ‘what calculation’ である。パラインサに特有な表現であり、意味は「なぜ」となる。

(6) 0:01:13 ミナ

ʔiθəkú=ma ʔəmɔiʔ=rǒ cəgá=go ná(+)*thəŋ!*

school=LOC animal=PL language=OBJ listen

「学校のこどもたちのことばを聞きなさい」

注 1 この部分で背後でこどもたちが歌っているけれども、よくきこえない。

注 2 *ʔəmɔiʔ* は本来は「動物」をはじめとした知能が低い生物をさす。ここでは「こども」のことをさしている。

注 3 *ná(+)*thəŋ** は、否定すると *mə-ná(+)*thəŋ** ‘NEG-listen’ とも *ná mə-thəŋ* ‘ear NEG-?’ ともいえる点がビルマ語とは異なる。

(7) 0:01:15 ミトゥ

ʔiθəkul!

school

「ガッコウ!」

(8) 0:01:17 こどもたち

cá=re, θɔʔ=te, rədũ cho=re, kǎ=re, niŋ=re=na.

eat=RLS drink=RLS song say=RLS dance=RLS stay=RLS=SFP

「食べて、飲んで、歌って、踊って、いるよ」

注 1 *rədũ cho* は「歌を歌う」という意味のパラインサ方言。

注 2 文末の *=na* は「とりたて」をあらわし、パラインサ方言で使用される。バンドルバン方言ならば *=gá* となる。

注 3 (8) ~ (13) は、もともとバングラ語で韻をふんだ歌であるものを無理矢理マルマ語に翻訳している。マルマ語として無理に韻をふもうとして、意味がよくとおらないところもある。

(9) 0:01:21 こどもたち

ʔɔʃabaŋ=ma kyí ná=re.

sugar.apple.tree=LOC parrot fly.and.rest=RLS

「バンレイシの木にオウムが飛んできて休んでいる」

(10) 0:01:24 こどもたち

dalónbaŋ=ma pyá wé=re.

pomegranate.tree=LOC bee fly=RLS

「ザクロの木に蜂が飛ぶ」

(11) 0:01:27 こどもたち

ye=hlɔ? khɔ=re.

this=as.much.as call=RLS

「これほど呼ぶ (のに)」

(12) 0:01:28 こどもたち

ja=fã mə-thú=lé?

what=calculation NEG-answer=CQ

「なぜ返事がないのか?」

(13) 0:01:30 こどもたち

yɔiŋkrai?+ʔiŋ=ma phá+ʔiŋ khəbrũfe phá+θá.

?+house=LOC frog+house toad.small frog+child

「機織りの家で、カエルの家、ヒキガエルのこども」

注 1 *yɔiŋkrai?* の意味は不明である。ただし、対応するバングラ語からは「機織り」と推測される。

注 2 *ʔiŋ* は、OCN は *wiŋ* のように発音する。

注 3 *cá* は *sá* のようにきこえる。

(14) 0:01:36 先生

ʔəmɔi?=rõ, wəthũ tə-bwai? ná(+)thɔŋ!

animal=PL story one-CL:bundle listen

「みんな、お話をひとつききましょう」

(15) 0:01:40 先生

ʔəyaŋʔəyaŋ+kalã=ma, tə-yɔ? máŋ ʔəɔ tə-yɔ? máŋmă, yáθu=rõ

long.ago+time=LOC one-CL:human king and one-CL:human queen that.person=PL

ʔəkhyaíŋθa hí=bo ʔəca pyaŋ=hə=lé cwĩ=ma dou?khwă hí=re.

peacefully be=SEQ what do=FUT=CQ heart=LOC unhappiness be=RLS

「昔々、一人の王と一人の王妃が、彼らは平和にいらしていましたが、何をしようかと、心に心配がありました」

注 1 *tə-yɔ? máŋ* 「一人の王」のように「類別詞 + 名詞」の語順であるのは、バングラ語の影響ではないかとおもわれる。*máŋ tə-yɔ?* ということもできる。

注 2 *máŋ* は *máuy* のようにもきこえる。

注 3 *ʔəɔ* はバングラ語からの借用語である。*ʔəɔ* とも発音されうる。

注 4 *yáθu* はバンドルバン方言では *yáŋθu* である。

注 5 *hīl* は、*hīŋ* ともいう。

注 6 *ʔəca* は、バンドルバン方言では *ja* である。

注 7 *=hə=lé* < *=hō=lé* である。このように未来標識の *=hō* はしばしば弱化する。

注 8 *douʔkhwā* はバンドルバン方言では *douʔkhā* である。

(16) 0:01:50 先生

yáθu=rō=ma θa hnciʔ-yəʔ hī=re.

that.person=PL=LOC son two-CL:human be=RLS

「彼らのところには、息子が二人いました」

(17) 0:01:53 先生

θəmíŋ tə-yəʔ=paŋ mə-hīŋ.

daughter one-CL:human=even NEG-be

「娘は一人もいません」

注 *θəmíŋ* はバンドルバン方言では *θəmwíŋ* である。

(18) 0:01:54 先生

tə-ŋywěkha ʔəca phrciʔ=lé, θi=lóʔ

one-night what happen=CQ know=PQ

「ある夜に何がおきたか、知ってますか？」

注 1 *ŋywěkha* は *ŋywě* は、おそらく「夜」という意味であるけれども、バンドルバン方言では使用されない。*kha* は単独で「時」という意味である。

注 2 *phrciʔ=lé* は *phrciʔ=te=lé* が縮約したものである。

(19) 0:01:57 先生

ʔəma+mógrí rwa=re.

very+storm rain=RLS

「とてもおおきな嵐がきました」

(20) 0:01:58 先生

tə-yəʔ phwáŋe+məmă, yəkha, máŋθáinǰkhá=ma raiʔ=pə khə=re.

one-CL:human small+girl then the.main.gate.of.the.palace=LOC stand=SEQ call=RLS

「一人の少女がその時、王宮の正門に立って呼びました」

(21) 0:02:03 先生

ʔəthé=dō wəŋ=hō pí!

place.inside=ALL enter=NMLS.FUT give

「中へ入れてください!」

(22) 0:02:06 先生

pró=lă, məmăŋe ʔəca pró=lé?

say=EMPH small.girl what say=CQ

「言ってごらんなさい、少女は何を言ったか?」

注 =lăは文末について何らかの強調をあらわす。バンドルバン地方では=năである。

(23) 0:02:09 ミトウ

thé=dō wəŋ=hō pí!

place.inside=ALL enter=NMLS.FUT give

「ナカヘイレテ!」

(24) 0:02:13 こどもたち

笑い声

(25) 0:02:15 こども

krě, krě, tə-gəŋ kyíŋə?!

look look one-CL:animal parrot.bird

「みなよ、みなよ、一羽のオウム!」

(26) 0:02:26 ミナ

mithu, naŋ ca phaiʔ-khyaŋ=ló?

PSN you letter read-want=PQ

「ミトウ、お前は勉強したい?」

(27) 0:02:31 ミナ

ŋa naʔ=ko θaŋ=me.

I you.OBL=OBJ teach=IRR

「私がお前に教える」

注 naʔ は naŋ “you” の斜格である。

(28) 0:02:35 ミナ

yeməge, pró=lă, mithu!

then say=EMPH PSN

「そしたら、言いなさい、ミトウ」

(29) 0:02:37 ミナ

ŋa name mithu.

I name PSN

「私の名前はミトウ」

(30) 0:02:40 ミトウ

ŋa name mitu!

I name PSN

「オレナマエミトウ!」

注 *mithu* というべきであるけれども、*mitu* のように発音している。

(31) 0:02:44 ミナ

nɔiŋ=re.

can=RLS

「できた」

(32) 0:02:49 ミトウ

mitu, mitu, ŋa name mitu, ŋa name mitu!

PSN PSN I name PSN I name PSN

「ミトウ、ミトウ、オレナマエミトウ、オレナマエミトウ!」

(33) 0:03:00 村長

ŋyǎ=gǎ ŋyoi? θəkhó ŋǎ choi?=ko yu=bɔ ləhǎ=re.

yesterday=ABL night thief I.OBL goat=OBJ take=SEQ go.VEN=RLS

「昨夜、泥棒が私の山羊をとって行った」

注 *ŋyoi?* はパラインサ方言では「夜」の意味である。(18)にある *ŋywěkha* と同義である。

(34) 0:03:07 村長

thě hǐ=re.

be.all.right be=RLS

「よろしい」

注 本来は *thi? hiŋ=re* のようにいうべきであるけれども、早口だと *thě hǐ=re* のように聞こえる。

(35) 0:03:09 村長

ŋa ?əgǔ lá=re.

I now go=RLS

「私は今行く」

(36) 0:03:10 村長

naŋ=ca ná+mya?cǐ khyǎ+thá-rǎ=phǒ.

you=NMLS ear+eye bring.down+put-must=FUT

「お前の(すべき)ものは耳と目をおろしておくべきということだ」

注 「お前は注意してみておくべきだ」という意味である。

(37) 0:03:12 村長

θəkhó=go pháiq-ră=phǒ.

thief=OBJ arrest-must=FUT

「泥棒を捕まえないといけない」

(38) 0:03:14 父

yá=ca pyaŋ=me, karəbari.

that=NMLS do=IRR village.master

「そうします、村長」

注 *karəbari* はバンングラ語からの借用語。

(39) 0:03:16 父

hr̥ikobare.

goodbye

「さようなら」

注 *hr̥ikobare* は「こんにちは」や「さようなら」などと訳しうる慣用表現である。*hr̥i* “front”、*ko* “self”、*ba* “POL”、*re* “RLS” と分析可能であるかもしれない。

(40) 0:03:18 父

yə=hlɔ? mina, ?əca krá=lé?

that=as.much.as PSN what be.late=CQ

「これほど、ミナ、何が遅れた？」

注 *?əca* は「何」という意味である。もしも「なぜ」といいたいならば *?əca=hǒ* “what=NMLS.FUT” というべきである。

(41) 0:03:20 ミナ

mithu=go cəgá prɔ=phǒ θaŋ-li=re.

PSN=OBJ language say=NMLS.FUT teach-PST=RLS

「ミトゥに言葉を話すように教えてたの」

(42) 0:03:22 母

mina, ?ələgá ?əkhyiq mə-phyə?=kě!

PSN meaningless time NEG-break=NEG.IMP

「ミナ、意味なく時間を無駄にしないで」

注 1 *?ələgá* はバンングラ語からの借用語。

注 2 *mə-* は先行する *?əkhyiq* の語末鼻音と同化しており、ほとんど聞こえない。

(43) 0:03:29 ミナ

ʔəɔ, ná(+)*thəŋ*, ŋa name mithu.

mother listen I name PSN

「母さん、聞いて、私の名前はミトウ」

(44) 0:03:33 ミトウ

ŋa name mitu!

I name PSN

「オレナマエミトウ」

(45) 0:03:34 両親

nəiŋ=re.

can=RLS

「できた」

(46) 0:03:36 ラジュ

ʔəpyə hi=re.

pleasure be=RLS

「楽しい」

(47) 0:03:38 父

raju, ʔiθəku=ma naŋ ʔəca θaŋ=lé, baba?

PSN school=LOC you what learn=CQ you

「ラジュ、お前は学校で何を勉強したよ」

注 *baba* はバングラ語で「父」という意味である。しかし、自分の息子を呼ぶためにも使用される。このような用法はもともとはバングラ語のものであるけれども、チッタゴン丘陵の少数民族語でもつかわれる。

(48) 0:03:41 ラジュ

tə-buŋ+grí!

one-CL:pile+big

「たくさん!」

(49) 0:03:43 ラジュ

hhh, ŋa ʔəgũ ŋă ʔəme rwi=phö tai?=te.

ITJ I now I.OBL name write=NMLS.FUT be.able.to=RLS

「ぼくは今自分の名前を書くことができる」

(50) 0:03:45 父

ʔəkɔŋ cəgá, ʔiθəku=ma naŋ cwī khyǎ=bɔ ca phaiʔ!

good language school=LOC you heart fall=SEQ letter read

「よい言葉だ、学校でお前は集中して勉強しなさい」

(51) 0:03:50 ミナ

baba, ŋa=lé ʔiθəku=ma ca phaiʔ-khyaŋ=re.

father I=too school=LOC letter read-want=RLS

「父さん、私も学校で勉強したい」

(52) 0:03:53 父

mə-houʔ, mina, naŋ ʔiŋ=ma niŋ, naʔ ʔəɔ=lǎ=bɔ.

NEG-be.right PSN you house=LOC stay you.OBL mother=COM=EMPH

「いや、ミナ、お前は家にいなさい、母さんと一緒に」

注 =lǎ=bɔ は「一緒に」という意味である。文末の=bɔ に特別な意味はない。バンドルバン方言では=nǎ=bɔ となる。

(53) 0:03:58 ラジュ

ŋa=lǎ=bɔ lá-hmɔiŋ=me.

I=COM=EMPH go-can=IRR

「ぼくと一緒に行けるよ」

(54) 0:04:00 父

məmǎ=rǔ ʔiθəku=dǔ lá=phǔ ʔəlo mə-hiŋ.

girl=PL school=ALL go=NMLS.FUT necessity NEG-be

「女の子たちは学校に行く必要がない」

(55) 0:04:02 ミナ

yegələ, ŋa ca phaiʔ-khyaŋ=re, baba.

however I letter read-want=RLS father

「だけど私は勉強したい、父さん」

(56) 0:04:04 母

naŋ θaŋ-rǎ=phǔ, khyǎʔ=phǔ, prouʔ=phǔ ʔəɔ ʔiŋ=ma ʔəlouʔ.

you learn-must=FUT cook=NMLS.FUT boil=NMLS.FUT and house=LOC work

「お前が学ぶべきは、煮炊きと家の仕事よ」

(57) 0:04:08 ミナ

ŋa ca phaiʔ-khyaŋ=re, dɔ.

I letter read-want=RLS mother

「私は勉強したい、母さん」

(58) 0:04:10 母

?əca=lé, mina?

what=CQ PSN

「何だって、ミナ?」

(59) 0:04:11 母

yə=hlɔ? məjɔŋ lo=lé?

that=as.much.as how be.necessary=CQ

「これほど、どのように必要がある?」

(60) 0:04:13 母

?əgũ, təphě ri yu-hwā=lā!

now a.little water take-VEN=EMPH

「今、すこし水をとってきなさい」

注 -hwāはバンドルバン方言では-khāである。

(61) 0:04:24 ミトゥ

鳥の鳴き声

(62) 0:05:06 ミナ

あくび

注 このあと、しばらく夢の中の映像がながれる。

(63) 0:05:58 ラジュ

mina, naŋ ?iθəku lai?=ke, kəgɔŋ kɔŋ=phǒ.

PSN you school come=COND good be.good=FUT

「ミナ、ミナが学校に来るなら、とてもよいのに」

注 lai? はバンドルバン方言ではつかわれない。

(64) 0:06:02 ミナ

naŋ lá-li, raju.

you go-IMP PSN

「あなたが行きなさい、ラジュ」

(65) 0:06:10 ニワトリ

鳴き声

(66) 0:06:13 ミトゥ

ニワトリの鳴き声のマネ

(67) 0:06:16 ミナ

mithu, naŋ ʔiθəku=dō lá-li=lā!

PSN you school=ALL go-IMP=EMPH

「ミトウ、お前は学校に行きなよ!」

(68) 0:06:18 ミトウ

ʔiʔ.

ITJ

なきごえ

(69) 0:06:20 ミナ

ʔiŋ, naŋ ʔiθəku=dō lá-li!

ITJ you school=ALL go-IMP

「そうだ、お前は学校に行きなさい!」

(70) 0:06:22 ミナ

ʔarə chəramǎ ʔəca pró=lé, ná(+)*thəŋ*=bə ləlaiʔ!

and teacher.female what say=CQ listen=SEQ go.IMP

「そして先生が何を言うか聞いて来なさい!」

(71) 0:06:25 ミナ

yəkha=bə naŋ ŋǎ=go θaŋ-hnəiŋ=me=bya.

then=EMPH you I.OBL=OBJ teach-can=IRR=PRF

「それから、お前は私に教えられるだろう」

(72) 0:06:27 ミナ

kyíŋŋaʔ=rō phaiʔ=phō ná(+)*thəŋ*=phō mə-krě.

bird=PL read=FUT listen=FUT NEG-watch

「鳥は読むことも聞くことも見ない」

注 1 「鳥は勉強しようとしなさい」という意味である。

注 2 *kyíŋŋaʔ* は、直訳としては「オウム・鳥」であるけれども、一般に「鳥」をさす。

(73) 0:06:30 ミトウ

phaiʔ=phō ná(+)*thəŋ*=phō mə-krě.

read=FUT listen=FUT NEG-watch

「ヨムノモキクノモミナイ」

(74) 0:06:32 ミナ

kóŋ=re, mithu, lá-li.

be.good=RLS PSN go-IMP

「いいわね、ミトウ、行きなさい」

(75) 0:06:35 ミトゥ

鳥の鳴き声

(76) 0:06:44 先生

ʔəgũ ŋõ hɲɔiʔ+naməta phaiʔ=phõ.

now we two+multiplication read=FUT

「今、私たちは二の段の掛け算を学びましょう」

注 1 *ŋõ* < *ŋa=rõ* “I=PL” である。

注 2 *naməta* はバングラ語からの借用語。

(77) 0:06:47 猫

猫の声

(78) 0:06:54 こどもたち

hɲɔiʔ tɔiʔ hɲɔiʔ, hɲɔiʔ hɲɔiʔ lé, θúŋ hɲɔiʔ hrɔʔ.

two one two two two four three two six

「2 かける 1 は 2、2 かける 2 は 4、3 かける 2 は 6」

注 1 *θúŋ hɲɔiʔ hrɔʔ* は *hɲɔiʔ θúŋ hrɔʔ* というべきだろう。しかし、バングラ語の原作でも「3 かける 2」といっているのだから、それをそのまま翻訳している。なお「六」はバンドルバン方言では *khɔʔ* であるけれども、パラインサ方言では *hrɔʔ* となっている。

注 2 バンドルバン方言では *hɲɔiʔ tə-liŋ hɲɔiʔ, hɲɔiʔ hɲɔiʔ-liŋ lé, hɲɔiʔ θúŋ-liŋ khɔʔ* のように、類別詞-*liŋ* “-CL:times” をもちいる。

注 3 *-ɔiʔ* は-õのようにきこえる。以下の類例でもおなじ。

(79) 0:07:01 先生

hɲɔiʔ tɔiʔ...

two one

「2 かける 1 は...」

(80) 0:07:03 こども 1

hɲɔiʔ!

two

「2!」

(81) 0:07:04 先生

hɲɔiʔ hɲɔiʔ...

two two

「2 かける 2 は」

(82) 0:07:04 こども 2

lé!

four

「4!」

(83) 0:07:05 先生

θúŋ hɔɪʔ...

three two

「3 かける 2 は」

(84) 0:07:06 ミトゥ

krɔʔ!

six

「ロク!」

注 ミトゥは有気音を発音できないようであり、本来は *khɔʔ* とすべきところが *krɔʔ* といっている。

(85) 0:07:10 ラジュ

ʔei, ʔě=ca=gá ɲõ kyí!

this this=NMLS=TOP we parrot

「あ、これはぼくたちのオウムだ!」

注 1 *ei* はバングラ語で「これ」を意味する。

注 2 *ɲõ kyí* はバングラ語で「これ」を意味する。

(86) 0:07:12 ミトゥ

ɲa name mitu!

I name PSN

「オレナマエミトゥ」

(87) 0:07:14 先生

ʔəma ʔəkóŋ cəgá, mɪthu.

very good language PSN

「とてもよい言葉ですね、ミトゥ」

(88) 0:07:28 ミナ

mɪthu, naŋ ʔəca θaŋ-hă=lé?

PSN you what learn-VEN=CQ

「ミトゥ、お前は何を学んできたの?」

(89) 0:07:30 ミトウ

hnɔi? tɔi? hnɔi?, hnɔi? hnɔi? lé, θúŋ hnɔi? krɔ?!

two one two two two four three two six

「ニイチガニ、ニンガシ、サンニガロク!」

注 本来は *khro?* というべきものが、ミトウの発音では *krɔ?* となっている。

(90) 0:07:36 ミナ

ŋa tai?=te=lɔ́, krě=me=lă!

I be.able.to=RLS=PQ watch=IRR=EMPH

「私ができるかどうか、見てみよう」

(91) 0:07:37 ミナ

hnɔi? tɔi?... nnn

two one FILL

「にさんが」

(92) 0:07:39 ミトウ

hnɔi?!

two

「ニ!」

(93) 0:07:41 ミナ

hnɔi? hnɔi?... nnn

two two FILL

「ににんが」

(94) 0:07:43 ミトウ

lé!

four

「シ!」

(95) 0:07:45 ミナ

lé!

four

「し」

(96) 0:07:46 ミナ

θúŋ hnɔi?... nnn

three two FILL

「さんにが」

(97) 0:07:48 ミナ

khɔʔ!

six

「ろく!」

(98) 0:07:50 ミナ

hnɔiʔ tɔiʔ hnɔiʔ, hnɔiʔ hnɔiʔ... nnn

two one two two two FILL

「にいちがに、ににんが」

(99) 0:07:54 ミトゥ

lé!

four

「シ!」

(100) 0:07:55 ミナ

θúŋ hnɔiʔ khɔʔ.

three two six

「さんにながろく」

(101) 0:07:59 ミナ

mithu, ŋa θaŋ-bəlɔiʔ=bya.

PSN I learn-CMPL=PRF

「ミトゥ、私は学んだわ!」

注 *-bəlɔiʔ* はおそらく *-bəlɔ* のように発音されている。そのせいで、声門閉鎖音のあとならば *=pya* となるはずのものが、*=bya* であらわれている。

(102) 0:08:04 ミナ

hnɔiʔ tɔiʔ hnɔiʔ, hnɔiʔ hnɔiʔ lé, θúŋ hnɔiʔ khɔʔ!

two one two two two four three two six

「にいちがに、ににんがし、さんにながろく」

(103) 0:08:11 ミナ

thĩ hĩ=re.

be.right be=RLS

「できた!」

注 バングラ語からの翻訳借用である。

(104) 0:08:16 ミナ

θúŋ hncɔi? khrcɔ?!

three two six

「さんにながろく」

(105) 0:08:22 ミナ

khrcɔ?!

six

「ろく!」

(106) 0:08:58 ミナ

?əra tə-khɔ? krě=me=lă.

more one-CL:time watch=IRR=EMPH

「もう一回してみようかな」

注 ?əra はバングラ語の借用語。

(107) 0:09:01 ミナ

θúŋ hncɔi? ?ərcɔ, ?ərcɔ tə-gɔŋ kra? ?ədō ləhă=lé?

three two and more one-CL:animal chicken where go.VEN=CQ

「さんになが... そして、あと一羽のニワトリ、どこ行ったの?」

注 ?ədōは ?əca=dō “what=ALL” の縮約形式である。

(108) 0:09:05 ミトウ

kra?, kra?!

chicken chicken

「ニワトリ、ニワトリ!」

(109) 0:09:09 ミナ

?ɔi, ?ɔi, θəkhó, θəkhó!

ITJ ITJ thief thief

「おーい、おーい、泥棒、泥棒!」

(110) 0:09:13 父

?əca phrcɔi?=lé, mina?

what happen=CQ PSN

「どうした、ミナ?」

(111) 0:09:14 ミナ

θəkhó tə-yɔ? ŋərō kra?=ko yu=bɔ ləhă=re.

thief one-CL:man we chicken=OBJ take=SEQ go.VEN=RLS

「泥棒が一人、私たちのニワトリをとっていった」

(112) 0:09:17 父

θəkhó, θəkhó!

thief thief

「泥棒、泥棒!」

(113) 0:09:21 ミトウ

θəkhó, θəkhó!

thief thief

「ドロボウ、ドロボウ!」

(114) 0:09:25 父

θəkhó, θəkhó!

thief thief

「泥棒、泥棒!」

(115) 0:09:28 村人 1

θəkhó, θəkhó, pháĩŋ!

thief thief arrest

「泥棒、泥棒、捕まえろ!」

(116) 0:09:31 村人 1

θəkhó, θəkhó, pháĩŋ, pháĩŋ!

thief thief arrest arrest

「泥棒、泥棒、捕まえろ、捕まえろ!」

(117) 0:09:33 村人 1

θəkhó, θəkhó, pháĩŋ, pháĩŋ!

thief thief arrest arrest

「泥棒、泥棒、捕まえろ、捕まえろ!」

(118) 0:09:39 村人 2

θəkhó, pháĩŋ, pháĩŋ!

thief arrest arrest

「泥棒、捕まえろ、捕まえろ!」

(119) 0:09:51 村長

hei, hei, yá θəkhó=ca mə-hou?=lɔ́=de?

ITJ ITJ that thief=NMLS NEG-be.right=PQ=SFP

「ヘイ、ヘイ、あの泥棒じゃないか?」

注 文末の=de は指示語としての de “this” とおそらく同一であるけれども、文末助詞として使用されるものである。

(120) 0:09:53 村長

yá θəkhó=go pháĩŋ!

that thief=OBJ arrest

「あの泥棒を捕まえろ!」

(121) 0:09:55 村長

pháĩŋ, pháĩŋ, θəkhó=go pháĩŋ!

arrest arrest thief=OBJ arrest

「捕まえろ、捕まえろ、泥棒を捕まえろ!」

(122) 0:09:56 村長

pháĩŋ, pháĩŋ, θəkhó=go pháĩŋ!

arrest arrest thief=OBJ arrest

「捕まえろ、捕まえろ、泥棒を捕まえろ!」

(123) 0:10:05 ミトゥ

θəkhó, θəkhó!

thief thief

「ドロボウ、ドロボウ!」

(124) 0:10:06 泥棒

泥棒の叫び声

(125) 0:10:30 村長

mina, naʔ=kijũ θəkhó=go pháĩŋ=phǒ ră=re.

PSN you.OBL=thanks.to thief=OBJ arrest=NMLS.FUT can=RLS

「ミナ、お前のおかげで泥棒を捕まえることができた」

(126) 0:10:33 父

kraʔ yu=re=kha θəkhó=go mraŋ=re=lóʔ

chicken take=RLS=time.when thief=OBJ see=RLS=PQ

「ニワトリをとったとき、泥棒を見たのか?」

(127) 0:10:36 ミナ

?ehǎŋ, mə-mraŋ-li.

ITJ NEG-see-PST

「いいえ、見なかったわ」

(128) 0:10:37 母

yeməge=hlɔʔ=ma məjɔŋ ná+le=léʔ

then=as.much.as=LOC how understand(ear+turn)=PQ

「それなら、どのようにわかったの?」

注 ná+le は、否定すると mə-ná+le ‘NEG-ear+turn’ とも ná mə-le ‘ear NEG-turn’ ともいえる点がビルマ語とは異なる。

(129) 0:10:39 ミナ

ŋa tə-khyaʔ gənáŋ louʔ-li=re.

I one-CL:time number do-PST=RLS

「私は一度かぞえてみたの」

(130) 0:10:42 父

naŋ ʔəca pyaŋ=bɔ θi=re=léʔ

you what do=SEQ know=RLS=CQ

「お前は どうやって知ったんだい?」

(131) 0:10:44 ミナ

ŋa ŋə kraʔ=ko rwi=re.

I we chicken=OBJ count=RLS

「私は私たちのニワトリをかぞえたの」

(132) 0:10:46 村長

kóŋ=re, kóŋ=re kóŋ=re.

be.good=RLS be.good=RLS be.good=RLS

「よし、よし、よし」

(133) 0:10:48 村長

θəmíŋ=go ʔiθəku=ma taŋ=bɔ pəŋŋya+grí ʔəlouʔ louʔ=re.

daughter=OBJ school=LOC put.up=SEQ knowledge+big work work=RLS

「娘を学校にあげて、賢い人のように仕事をしたね」

注 ミナは、実はまだ学校にいないけれども、村長は、学校にいきはじめたとおもっている。

(134) 0:10:50 父

ye, ye, nnn... bəjɔŋ...

ITJ ITJ FILL how

「あー、あー、んー、どうしよう」

(135) 0:10:54 おばあさん

ʔə, məmā=rō=go ca khyā=ca ʔəkóŋ cəgá.

ITJ girl=PL=OBJ letter bring.down=NMLS good language

「おー、女の子たちを学ばせるのは、よい話ですね」

(136) 0:10:57 おばあさん

ŋǎ θəmíŋ=ma tə-khouʔ kraʔkhraŋ hīŋ=re.

I.OBL daughter=LOC one-CL:? chicken.farm be=RLS

「私の娘のところに一つ養鶏場があります」

注 *-khouʔ* は通常は「罨」をかぞえる類別詞である。ここでは養鶏場をかぞえているので、何か別の意味ではないかとおもわれる。*tə-khǔ* ‘one-CL:thing’ であるかもしれない。

(137) 0:10:58 おばあさん

ʔəra ŋǎ θá=ca ŋǎ=go táŋŋá pí=re.

and I.OBL son=NMLS I.OBL=OBJ money give=RLS

「さらに、息子が私にお金をくれます」

(138) 0:11:01 父

houʔ=te.

be.right=RLS

「そうですか」

(139) 0:11:03 おばあさんの娘 (タラ)

ŋa=lé θəku lá-khī=re.

I=too school go-ANDV=RLS

「私も学校に行ったわ」

注 *-khī* はパラインサ方言の形式。バンドルバン方言では *-khi* である。もしもバンドルバン方言で *-khī* をつかうとしたら、述部には *=me* ‘=IRR’ しかあらわれない。

(140) 0:11:04 おばあさんの娘

ʔəcaiʔcaiʔ θaŋ-hǎ=re.

various.thing learn-VEN=RLS

「いろんなことを学んだわ」

(141) 0:11:05 おばあさんの娘

ʔəmciʔʃe=go ʔəhlǎ thá-hnciŋ=re.

animal.small=OBJ beautiful put-can=RLS

「こどもを美しくおくこともできる」

注 「こどもも立派に育てられる」ということ。

(142) 0:11:07 母

houʔ=te.

be.right=RLS

「そうね」

(143) 0:11:08 村人

ŋǎ θəmíŋ=ca ŋá+dáŋ rɔʔ=hŋyɔŋ ca+phaiʔ-li=re.

I.OBL daughter=NMLS five+class arrive=ESS letter+read-PST=RLS

「私の娘は五年生まで勉強しました」

注 =hŋyɔŋ はパラインサ方言の形式。バンドルバン方言では=yɔŋ である。

(144) 0:11:11 村人

?əgũ ŋǎ=go ca rwí=phǒ nɔiŋ=re.

now I.OBL=OBJ letter write=NMLS.FUT be.able.to=RLS

「今、私に手紙をかくことができる」

(145) 0:11:12 父

n...

ITJ

「んー」

(146) 0:11:13 村長

θəθǎiŋ məmǎ=go praiŋmari+θəku taŋ-rǎ=phǒ.

all girl=OBJ primary+school put-must=FUT

「すべての女子を小学校にあげなければならない」

注 1 θəθǎiŋ 「すべて、きれいさっぱり」 < θǎiŋ 「きれいな」

注 2 praiŋmari θəku は、本来は praiŋmari ?iθəku であるけれども、i が二つ連続するときに縮約しているように聞こえる。

(147) 0:11:16 村長

thú ?iθəku=ma ŋá+dáŋ rɔʔ=hŋyɔŋ taŋ-rǎ=phǒ.

that school=LOC five+class arrive=ESS put.up-must=FUT

「あの学校で五年生まで至るようにあげなければならない」

注 バングラデシュの学校制度では、五年生までが小学校である。

(148) 0:11:20 父

n, ?iŋ, houʔ=te cəgá.

ITJ yes be.right=RLS language

「んー、はい、ただしい話だ」

注 ここでは動詞文標識=te '=RLS' が名詞修飾節をみちびいている。

(149) 0:11:23 父

mina, naŋ hnaʔphaiŋ=gəbaŋ ʔiθəku=dō lá-li.

PSN you tomorrow=from school=ALL go-IMP

「ミナ、お前は明日から学校に行きなさい」

注 1 *hnaʔphaiŋ* ‘tomorrow’ は、バンドルバン方言では *hnaʔphraiŋ* である。

注 2 =*gəbaŋ* ‘=from’ は、バンドルバン方言では=*gǎ=baŋ* ‘=ABL=EMPH’ である。

(150) 0:11:25 ミナ

ʔəkóŋ pró=líʔ

good say=PQ

「本当に？」

注 *ʔəkóŋ* ‘good’ といっているように聞こえるけれども、文脈からすると *ʔəgǒŋ* ‘true’ というべきではないだろうか。次の文も同様である。

(151) 0:11:26 父

ʔəkóŋ pró=re, θəmí.

good say=RLS daughter

「本当だよ、娘よ」

注 *θəmí* はマルマ語ならば *θəmwíŋ* というべきところである。介音の-wや語末子音の-ŋが発音されないのは、ビルマ文字ではそれらを表記しないからではないかとおもわれる。

(152) 0:11:27 母

həha, ŋa=lé yáŋ=ca pró=re.

ITJ I=too that=NMLS say=RLS

「はは、私もそれを言うわ」

(153) 0:11:28 母

yeməge naŋ=lé ŋǎ=go rwí=phǒ phaiʔ=phǒ θaŋ-hnɔiŋ=me.

then you=too I.OBL=OBJ write=NMLS.FUT read=NMLS.FUT teach-can=IRR

「そしたら、お前も私に読み書きを教えることができるだろう」

注 *rwí=phǒ phaiʔ=phǒ* は、「読み書き」という意味の精巧表現である *rwí+phaiʔ* が、イオン化 (ionisation) して分離したものである。

(154) 0:11:31 ミナ

ʔərcə naŋ ŋǎ=go khyaʔ=phǒ θaŋ hhhh.

more you I.OBL=OBJ cook=NMLS.FUT teach ITJ

「そして、母さんは私に料理をおしえ... ははは」

(155) 0:11:35 ラジュ

ʔəpyɔ̃ hĩ=re, ɲǒ tə-laʔ=ma ʔiθəku lá=phǒ.

joy exist=RLS we one-CL:time=LOC school go=FUT

「楽しいね、ぼくたち一緒に学校に行こう」

注 *tə-laʔ=ma* “one-CL:time=LOC” は「一緒に」という意味である。また、*tə-laʔ=té=ma* “one-CL:time=EMPH=LOC” としたほうがよりよい。

(156) 0:11:42 母

mina, naʔ=ko rwi=phǒ ʔəθu θaŋ=lé?

PSN you.OBL=OBJ count=NMLS.FUT who teach=CQ

「ミナ、お前に誰が数えることを教えたの？」

注 *ʔəθu* ‘who’ はほとんど *θu* のようにもきこえる。

(157) 0:11:44 ミナ

tə-yɔʔ ʔəphaʔθa, yáŋθu ʔiθəku=dǒ ləhǎ=re.

one-CL:man friend that.man school=ALL go.VEN=RLS

「一人の友だちが、その人が学校の方に行ったの」

(158) 0:11:46 父

yá ʔəphaʔ ʔəθu=lé?

that friend who=CQ

「その友だちは誰だい？」

(159) 0:11:49 ミトゥ

ŋǎ name mitu!

I.OBL name PSN

「オレナマエミトゥ」

(160) 0:11:52 全員

hahaha

ITJ

「ははは」

記号・略号一覧

/A/	A は音素表記
(A)	A は任意の要素
A < B	A は B に由来する
A > B	A は B に変化する
+	複合語境界
-	接辞境界
=	接語境界
ABL (ABLative)	奪格
ALL (ALLative)	方向格
ANDV (ANDative)	去辞
AUX (AUXiliary verb)	助動詞
CL (CLassifier)	類別詞
CMPL (CoMPLetive)	完遂
COM (COMmitative)	共同格
COND (CONDitional)	条件
CQ (Content Question marker)	補足疑問標識
EMPH (EMPHatic)	強意
ESS (ESSive)	様態格
FILL (FILLer)	つなぎ言葉
FUT (FUTure)	未来
IMP (IMPERative)	命令
IRR (IRRealis)	非現実法
ITJ (InTerJection)	間投詞
LOC (LOCative)	場所格
NEG (NEGative)	否定
NMLS (NoMinaLiSer)	名詞化標識
OBJ (OBJective)	目的格
OBL (OBLique)	斜格
PL (PLural)	複数
PQ (Polar Question marker)	諾否疑問標識
PRF (PeRFect)	完了

PSN (PerSonal Name)	人名
PST (PaST)	過去
RLS (ReaLis)	現実法
SEQ (SEQuential)	継起
SFP (Sentence Final Particle)	文末小辞
TOP (TOPic)	主題
VEN (VENitive)	来辞

参考文献

西田龍雄. 1972. 『緬甸館訳語の研究: ビルマ言語学序説』松香堂.

藤原敬介. 2021. 「マルマ語版・ミナ「私は学校がすき」」『言語記述論集』13: 317–354. <http://id.nii.ac.jp/1422/00000912/>

Hla Pe. 1967 (2019) A tentative list of Mon loan words in Burmese. In LaPolla, Randy (ed.), *Sino-Tibetan linguistics volume II: language contact and areal features*. London and New York: Routledge, pp. 199–227.

(附記) 本稿は科学研究費補助金 (課題番号 20K00570) による研究成果の一部である。

受理日 2022 年 4 月 12 日